

日本がもし 1,000人の村 だったら？



国民皆保険制度の維持とジェネリック医薬品について考えよう。





国民皆保険制度とは、国民全員が公的な医療保険を通じて
安い医療費で高度な医療を受けられる制度のことです。

少ない窓口負担でお医者さんにかかることができるのは
国民皆保険制度のお陰です。

しかし急速な少子高齢化等により
その制度自体がゆらぎはじめています。

制度を維持するためには
皆で医療費節減に取り組まなければなりません。

この冊子では、いまこの国が抱えている様々な問題を
分かり易く 1,000 人の村に例え表現しています。

皆さんにご理解いただくことで
少しでも国民皆保険制度の維持につながればと思います。

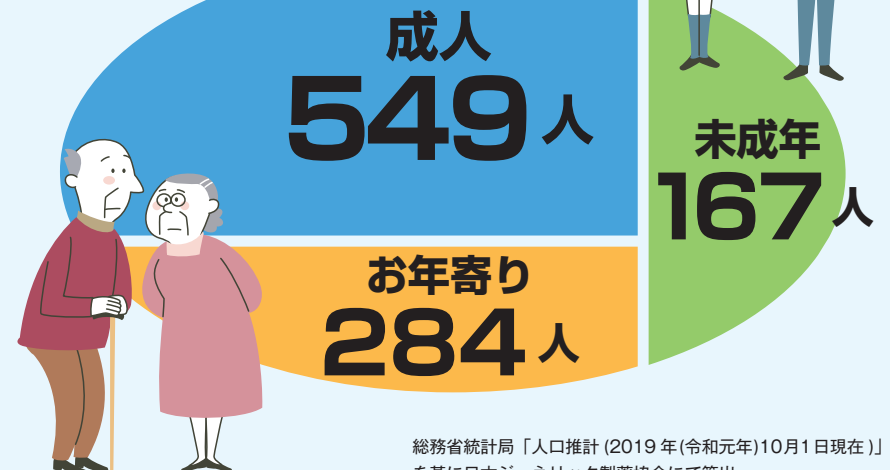


日本がもし 1,000人の村だったら？

日本がもし 1,000 人の村だったら
487人が男性で、513人が女性です。
549人は成人
167人は未成年
284人は65歳以上のお年寄りです。



村長



総務省統計局「人口推計 (2019 年 (令和元年) 10月1日現在)」
を基に日本ジェネリック製薬協会にて算出

日本がもし1,000人の村だったら？

村の人口構成はどうなるの？

この村では若い人※は、だんだんと減ってきており、
1,000人のうち595人になっています。※若い人：15～64歳
またそれに伴い、支えなければならない人が増えています。

いまは595人で284人の お年寄りを支えています
2065年には
514人で384人の お年寄りを 支える必要があります。

村の人口構成も変わって来て
先人が作ってきた社会システムが
いま、ゆらぎはじめておる。
現在は2.1人で1人の お年寄りを
支えているが



なんだか
申し訳ないねー



2065年には1.3人で
1人の お年寄りを支える
構造になることが予測
されているのじゃ。

もう
ダメかも



内閣府「令和2年版 高齢社会白書」を基に日本ジェネリック製薬協会にて算出

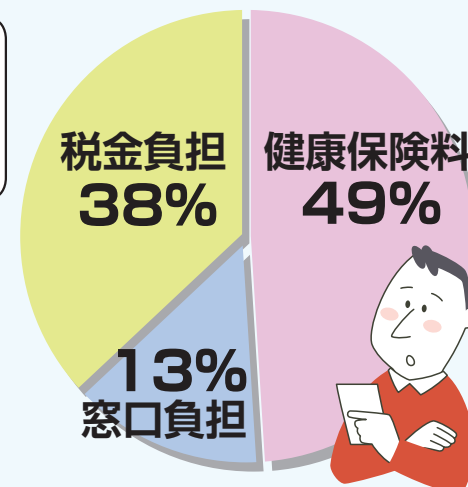
日本がもし1,000人の村だったら？

村の医療費はだれが払うの？

この村には、他の村にはない 自慢の医療制度があります。
全員が健康保険に加入するこの制度は
皆保険制度と言われ、長くこの村の医療を支えています。

この制度維持のため1年間にかかる費用は
村人が、健康保険料として約49%、税金として38%、
そして13%を窓口で払って成り立っています。
村人は窓口ではそんなにお金は要りませんが
実際は形を変えてこの費用を支払っています。

患者負担は3割負担の人も
2割負担や1割負担の人もいて
平均すると13%になるのじゃ。
ただ実際には その7.7倍の
費用がかかっているのじゃ。



厚生労働省「平成30年度 国民医療費の概況」



日本がもし1,000人の村だったら？

健康で長寿な社会。 でも、増え続ける医療費と 少子化による負担の変化。

医療技術が進歩したのは、うれしいことです。

でも、新しい医療にはお金がかかります。

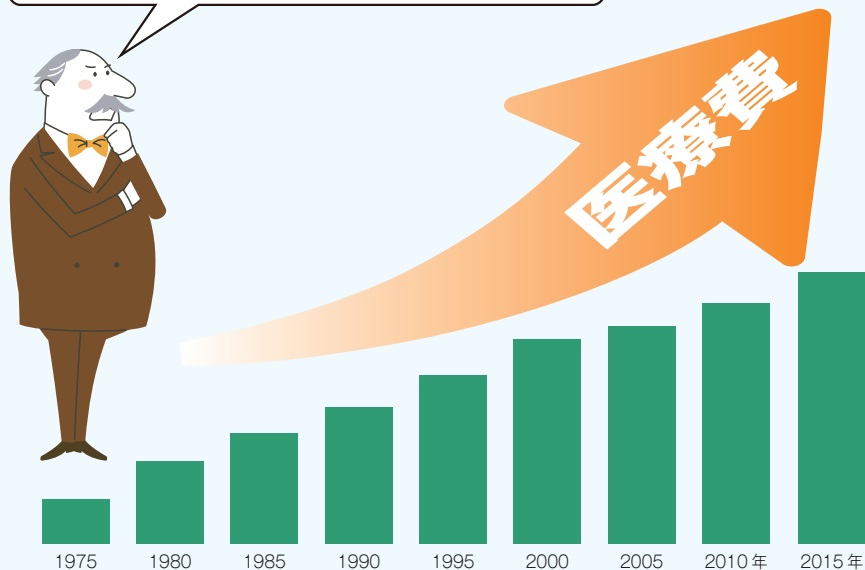
長生きする人が増えたのは、うれしいことです。

でも、そのために医療費は毎年2.2%ずつ増えています。

子供が減っているのは、将来の村を支える人が

減ってあまりうれしいことではありません。

医療技術がどんどん進歩して長生きするお年寄りが
増えているのはうれしいが、一方で今のままだと
医療費がどんどん増え続けるのじゃ。



厚生労働省「平成30年度 国民医療費の概況」

日本がもし1,000人の村だったら？

村の財政も火の車。 このままでは村自体も 立ち行かなくなります。

村の財政は厳しい状態が続いており、

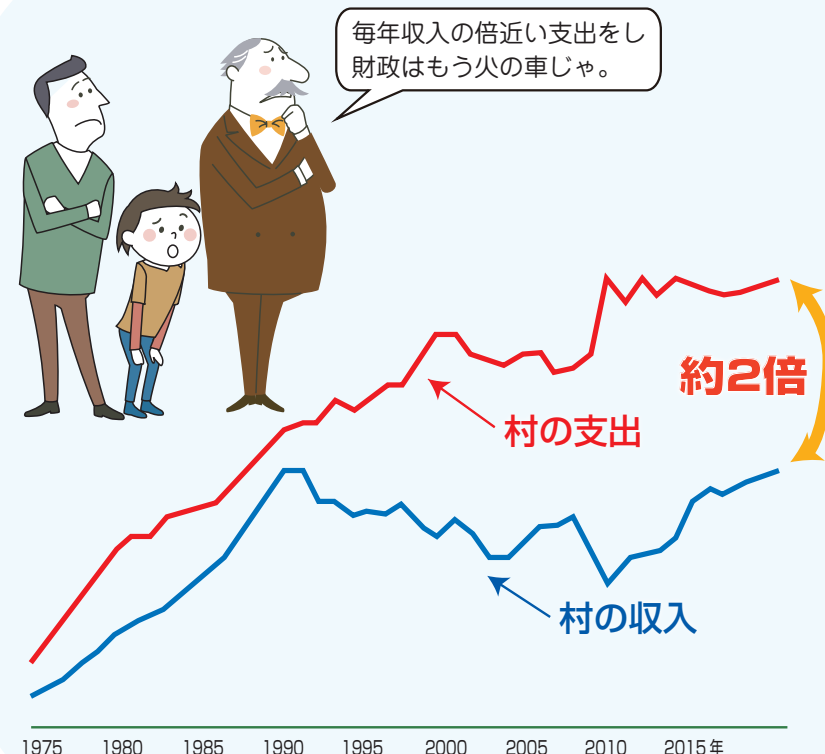
今も収入の倍近い支出をしています。

何とか支出の伸びを抑えようと努力をしていますが、

急速な高齢化を背景に社会保障費は増え続け、

このままでは村自体が立ち行かなくなります。

毎年収入の倍近い支出をし
財政はもう火の車じゃ。



財務省「日本の財政関係資料 令和元年10月」

日本がもし1,000人の村だったら？

ますます増え続ける医療費を まかなうためには？

せっかくの素晴らしい皆保険制度

それをまかなうために健康保険料をあげれば

払えない人が増えるでしょう。

窓口負担もこれ以上あがると、病院にいけない人が増えてきます。

村人たちは、ひとりひとりの問題として

自分たちにできることはないか、考えはじめました。



この世界に誇れる皆保険制度と医療技術の
進展や、生活水準の向上などで世界で最も
長寿な村のひとつになるなど、素晴らしい
成果を得てきたんじゃ。

現在の一人あたり医療費
年343,000円



毎年2.2% ずつ増加

ただ、同時に少子高齢化、医療費の増加も進んでいて医療を支える皆保険制度にも大きなほころびが生じてきているんじゃ。具体的に言うと、医療費は毎年2.2%ずつ増えていき15年後、医療費は・・・

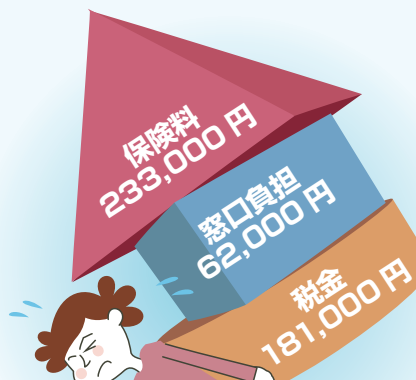


15年後はこうなる！

このまま村の医療費が増えていくと、村民一人あたりの医療費は

現在の**約1.4倍**、

年476,000円にもなります。



日本がもし1,000人の村だったら？

皆保険制度維持のために ひとりひとりができること。

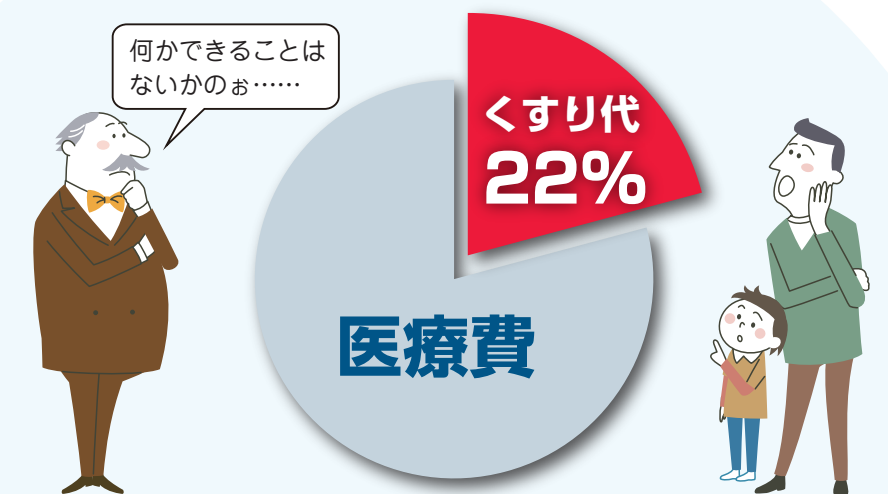
子どもたちの世代に迷惑をかけることはできません。

皆保険制度は、なんとしても維持していかなければなりません。

村人たちは、何か自分たちにできることがないかを考えました。

そうすると医療費のうち22%がくすり代とわかりました。

このくすり代を何とか減らす方法はないか、村人たちは考えました。



自分たちにできることって、何？くすり代を減らすことってできるの？

するとある日 くすりに詳しい若者 Mr. ジェネリックが
効き目が同じで低価格のジェネリック医薬品があるという話をしました。

ジェネリック医薬品を使えば、今の医療水準を維持したまま
くすり代を節約することができるという話でした。

これなら医療の質を落とすこと無く、効率化を図ることができます。

ひとりひとりの負担もみんなの負担も減らすことができます。

村の財政にも貢献でき、みんなが

今まで通り、安心して医療を受けられそうです。



なるほど！ジェネリック医薬品を使う事なら僕たちでもできるんだ！

ジェネリック医薬品の使用は 社会貢献につながります。

ジェネリック医薬品を使用することは
個人の医療費負担軽減はもとより、
医療費全体の効率化へ
大きなムーブメントを起こすキッカケにもなり得ます。

“かけがえのない皆保険制度維持のために”
“かけがえのない子供たち次世代のために”
皆さんもできることから始めてみませんか。

村民ひとりひとりの小さな意識改革が
やがて大きな波を起こすことになるんじゃ。



協会けんぽに聞く

ジェネリック医薬品使用促進 ～協会けんぽの取組み～

全国健康保険協会理事長
安藤 伸樹

協会けんぽは、中小企業を中心に加入事業所数約 230 万、加入者数約 4,000 万と、日本最大の医療保険者です。現在、協会けんぽの全国平均の健康保険料率は既に 10.0%に達しており、現役世代の負担は限界水準にある中で、医療費の伸びが賃金の伸びを上回るという財政の赤字構造が依然として残っております。

近年、医療技術の進歩等により様々な新薬、高額薬剤が増え、よりよい医療を享受できる一方で、医療費支出も増え、医療保険財政を圧迫しています。この限られた医療保険財政を安定的に運営していくためには、削減できる部分は削減し、未来の医療を支える医療保険の財政資源に充てる、いわゆる「医療費の適正化」を図り、未来の世代のため、日本の医療保険制度を維持するために、先発医薬品と効能効果が同等で、比較的価格が安いジェネリック医薬品の普及を推進しています。

主な取組としては、加入者の皆様のジェネリック医薬品の使用希望について医師や薬剤師の方への伝達をサポートする「ジェネリック医薬品希望シール」の配布、先発医薬品を使用している方に対して、ジェネリック医薬品に変更した場合の具体的な自己負担軽減額をお知らせする「軽減額通知サービス」などを実施しています。

また、協会けんぽの保有するデータによりジェネリック医薬品の使用が進まない地域、年齢、薬効分類などの阻害要因を分析し、個別の医療機関や薬局に働きかけを行うなど、重点的に取り組むべき対策の検討に役立てています。

こうした取組の結果、協会けんぽの加入者の皆様のジェネリック医薬品の使用割合は令和 2 年 4 月時点で約 79.0%（医科、DPC、歯科、調剤）に達しております。しかしながら、支部ごとにみると、最も高い支部は約 88.5%、最も低い支部は約 70.6%と最大で約 17.9 ポイントの差があり、こういった地域間の格差を是正するため、使用割合が低い地域の加入者の皆様にも広げていくことが大切と考えております。

また、日本のジェネリック医薬品の使用割合は先進諸国と比べると低く、ジェネリック医薬品の安心・安全といった信頼性の確保、普及促進を一層図っていくためには、流通や薬局の在庫管理、医療現場におけるジェネリック医薬品に対する理解などの課題を解決していく必要があります。

持続可能な医療保険制度の実現に向けて、国民一人ひとりが医療費や薬剤費に対する意識を高めることが大切です。

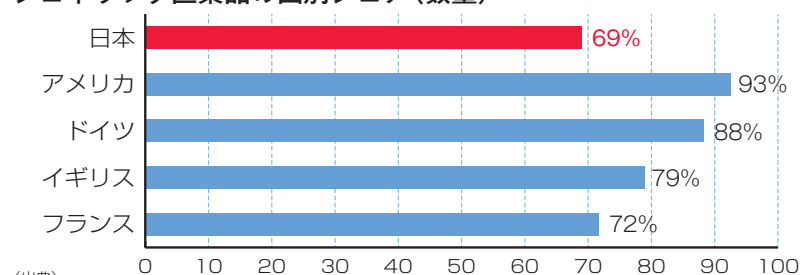
ジェネリック医薬品について

【ジェネリック医薬品とは】

ジェネリック医薬品は、新薬（先発医薬品）の特許期間を満了した同じ有効成分を使った、品質、効き目、安全性が同等で、低価格なおくすりです。

- 経済性に優れ、患者さんの負担額が軽減できます
 - 品質、有効性、安全性は新薬と同等です
 - 患者さんに優しい製剤工夫がされているおくすりもあります
- 国もジェネリック医薬品の使用促進に積極的に取り組んでいます。

ジェネリック医薬品の国別シェア（数量）



（出典）
Copyright ©2020 IQVIA, IQVIA MIDAS, Market Segmentation, MAT Sep 2019, RX only (PRESCRIPTION BOUND) 他、無断転載禁止
※厚生労働省委託事業「令和元年度 ロードマップ検証検討事業報告書」よりデータを引用し編集

【どうして低価格なの？】

新薬は、長い歳月と、数百億円以上といわれる費用をかけて開発されます。ジェネリック医薬品は、新薬と比較して開発にかかる費用や時間が少なく、低価格で提供ができます。

【効き目も安全性も同等】

ジェネリック医薬品は新薬と同じ有効成分を同じ量含有し、効き目も安全性も同等です。国が定めた厳しい品質基準で承認されます。また、法律にしたがって新薬と同様に製造管理や品質管理が厳しくチェックされています。



【ジェネリック医薬品の品質】

ジェネリック医薬品の中には、新薬と色や形が違うものもあります。これは新薬が発売されてからジェネリック医薬品が発売される間の製造技術の進歩や、さらには製薬企業の製剤開発の工夫により、より飲みやすく改良することがあるからです。色や形、味や香りなどが異なる場合がありますが、効き目に差はありません。

【添加剤についての考え方】

ジェネリック医薬品は新薬と異なる添加剤を使用する場合がありますが、医薬品に使用する添加剤はそれ自身が体に作用したり有効成分の治療をさまたげたりするものは使用していません。使用前例があり、安全性が確認されている添加剤が使用されています。添加剤が異なっても、効き目や安全性に影響はありません。＊ただし、アレルギーをお持ちの方は、新薬、ジェネリック医薬品を問わず、添加剤の中でアレルギーを起こすものがあるかもしれませんので、医師や薬剤師にご相談下さい。

詳しくは日本ジェネリック製薬協会ホームページへ
<https://www.jga.gr.jp>

かんたん差額計算 トップページ⇒かんたん差額計算ページ

ホームページで 処方されているお薬名をご入力いただくと

1. 処方されているお薬にジェネリック医薬品があるかどうか分かります。
2. 処方されているお薬をジェネリック医薬品に切り替えた場合の差額が表示されます。



また、スマートフォンでも差額計算ができるようになりました。

[トップページ⇒一般の方向け⇒かんたん差額計算ページ](https://system.jga.gr.jp/easycalc/)

<https://system.jga.gr.jp/easycalc/>



このサービスは無料です。また、個人情報の入力も必要ございません。お気軽にご利用ください。